

シオンの子

第 26 号

2011.5.10

東日本大震災により被災された方々に 心からお見舞い申し上げます

貴方の子供は 貴方の子供でない

彼等は人生の希望そのものの息子であり娘である。
 彼等は貴方を通じて来るが貴方から来るのではない。
 そして彼等は貴方と共に居ても彼等は貴方には属していない。
 貴方は彼等に愛を与えてもいいが、貴方の考えを与えてはいけない。
 何となれば彼等は自分の考えを持っているからである。
 貴方は彼等の身体を家に入れてもいいが彼等の魂を入れてはならない。
 何故なら彼等の魂は貴方が訪ねる事も出来なければ、夢の中でさえ訪ねることが出来ない明日の家に住んでいるからである。
 貴方は彼等がある様になろうと励んでもよいが、彼等を貴方の様にしないようにしなさい。
 何故なら人生は後戻りもしなければ、昨日と共に躊躇もしないからである。
 貴方は弓であり、貴方の子供はそれから生きている矢として送り出される。

カール・ギブラン

- 子持山学園要覧より抜粋 -



幼稚園年長 男子
『母の日』

編集

社会福祉法人子持山福祉会

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1

発行 印刷

児童養護施設子持山学園

TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153

E-mail

komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp

年度始めにあたり
- 幸・不幸をかみしめて -

社会福祉法人子持山福祉会
理事長 島田 卓爾

いつも子持山学園に対し温かいご支援・ご協力を下さっている皆さま、役員の方々、総ての園児諸君揃って新しい年度を迎えることができ、先ずは喜ばしく心から感謝を申し上げます。例年であれば、春爛漫満開の桜と美しい四囲の山々に包まれて心うきうきと楽しい日々を満喫する時季の筈が、三月一日突如として史上例をみない大地震、大津波が東北・関東の太平洋沿岸を襲ってライフライン総てに壊滅的打撃を与え、更には原発放射能汚染をもたらして、これら大災害による死傷者・行方不明者、避難者多数を生ぜしめたのです。

計画停電という耳新しい文化生活上のトラブルや物資の不足もありましたが、幸いなことに本園では職員先生方の適切な指導処置によって危機を脱することができ、子ども達の被害を最小限にとどめることができました。更には被災者へ義援金を贈ろうとの優しい心も生れています。

さて、かつて本園創設当初からお勤めいただいた故・横堀哲夫先生(三千代夫人は現在前橋市に在住)が住居として建てられ後に譲られ小規模ホームであった子ども達の「シオンホーム」が、耐震診断の結果改築の余儀なきに至り、県の補助とエキスパートグループの皆さんのご支援等を賜わり、相崎工務店(設計・監理)、南澤建設(建築施工)のお骨折りをいただいて立派に出来上り、このたび園児も木の香新しい舎屋に移ることができました。

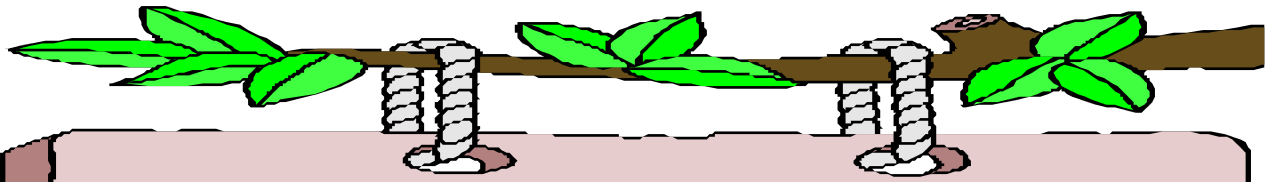
わが学園の永い歴史の中で、一時代を隔する「シオンホーム」の新築落成が、わが国未曾有の大災害の復旧のさ中に行なわれたことは、不幸を乗り越えて、よりよき未来に向って立ち上がるう」という人間そのものの力強く生きようとする意志の連続性・連帯性を感じ、新しい生命への憧憬(あこがれ)すら覚えさせてくれた年度の始まりでした。

念願のシオンホームの新築

児童養護施設 子持山学園
施設長 豊田 誠

三月十一日午後二時四十分。東日本大震災が起こりました。未曾有の大災害であり、地震・津波・原発事故による放射能の発生という未だ経験したことのないことが現実になりました。一万人を超す死者。十数万に及ぶ被災者は不安な毎日を送っており、一日も早い支援と復興を願っています。日本人の底力を信じたい。仲間と共に力を合わせ、叡智を集め信念を持ち、希望に向かい光の射す方向へ突き進もう。復興への道は長い険しい道。世界中がまだ解いたことのない難題・課題に立ち向かい前に進むしかない道だ。覚悟を決めて進もう。この道は子ども達の未来を開く大事な道になるはずだ。

三月末に、念願のシオンホーム(女子六人の園内小規模ホーム)が新築完成しました。旧シオンホームが耐震性に欠け、群馬県の耐震工事の補正予算(補助金)が認められたことにより実現できました。シオンホームはより家庭的な体験ができ、先生方と愛着関係が育成できる環境を目指しています。金銭のこと食事のことも考えられ、みんなが協力して仲良く生活できる場にした。虐待等で入所する児童も多くなってきたり、情緒の安定にも支援できるようソールシャルスキルやコミュニケーションの技術を取り入れた支援も考えたい。全職員でアイデアを出し設計に生かしてもらった。理事会や支援してくださる方々、県や地域の皆様にお世話になり紆余曲折はありましたが、完成することができました。設計事務所、建設会社や職人の誇りと気概、高い技術に感動しました。建物の中に併設した親子訓練室(いずみ)はこれから巣立つ多くの子どもにとつて自分の課題を見つけ訓練できる場であり、また家族再統合に向けて有効な場となるはず。シオンホームはどの条件が足りなくても完成できなかつたと思えます。本当にありがとうございます。



子どもの養育を考える

第8回 新シオンホームの展望

児童養護施設 子持山学園

主任指導員 長島 英之

老朽化した旧シオンホームは解体され、その役割を終えた。旧シオンから社会へ巣立った子どもはどのような思いでいるのだろうか。

古くて使いにくい部分を工夫して女の子らしく飾りつけたこと、大喜びだったお古の学習机、せまくてすれ違うたびに肩と肩がぶつかりケンカが絶えなかったこと、大切にした誕生日、台風の雨漏りの夜、普段気持ちを表に出さないのである（飼っていた犬）が亡くなった時に大声で泣き続けたこと、手作り味噌の味噌汁の味、川の字で一緒に寝たこと、楽しかったホーム旅行などなど、書ききれない程沢山の喜怒哀楽。

もちろんいいことばかりではなかった。裏切られたり、不信任に陥ったり、他人に迷惑をかけたり。職員も失敗は多々あったが、そこから学び子どもと一緒に成長してきた。子どもとの関係性から深く傷付き立ち直れない職員もいたが、危機的な状況をなんとか乗り越えて来れたのは、やはり色々な人の支えだと思ふ。直接の支援でなくても心が勇気付けられたり温められると、もう一度やってみよう！と思えるものだ。

旧シオンホームの七年間、変わらずに担当を続けた職員もいれば、園の都合で他のホームへ異動した職員もいる。皆、その時々で精一杯の愛情を子どもたちに

注いでくれた。喜怒哀楽も危機的状況も子どもと共有してきた。卒園した子どもたちが時折顔を見せるのは、育った家に来てホッとしたのと同じくらい、当時の担当職員に会いたいのだろう。顔を見るだけで、当時の生活にタイムスリップしてしまうのだ。本園や地域小規模ホームでも子どもが顔を見せるのは同様のことだろう。

新たに生まれ変わったシオンホームは、子どもたちの生活行動を見越して十分な機能を持ち合わせている。もう、お古の机をもらうことも川の字で寝ることも無いだろうが、シオンという一つ屋根の下で沢山の思い出や感情を育んでほしい。社会に出て困らないよう沢山のスキルを身に付けてほしい。そして荒波がやってきたり疲れた時は、支えを求めてほしい。人は一人では生きていけない、助け合うものだから。

子持山学園の要覧にカール・ギブランの詩があり、シオンホーム奉献式（開所式）の時に、波川教会小林牧師が読み上げた。「（中略）貴方は弓であり、貴方の子供はそれから生きている矢として送り出される。」子どもたちが一人立ちできるように矢のように飛び立たせてあげる、そのような働きをシオンホームは託されていると話されたことをいつも覚えていたい。



三月に高校三年のSを送り出し、六名でスタートしたまことホーム。

二年前、私と一緒にまことホームにやってきた最年少のTも四月から幼稚園へ通い始めました。二年間見送るだけだった幼稚園バスに、「おれ、乗れるん？」

と、とても楽しみな様子。一緒に通う兄も、「Tくん、組に連れて行ってあげようか？」と心強い言葉をかけてくれます。

最年長のAは、几帳面な性格で、学校で習ったアイロンかけをピシッとしてくれます。ゆっくりだけれど、やらなければいけない事をシッカリこ

なすAを見て、周りの子ども達まで、「ウチは をする!!」と自ら動いてくれる様になりました。私は、子ども達の「積極性」を継続できるようにサポートしていきたいと思っています。おっとりとしていて、決して威張らないA。ホーム全体がゆっくりのんびりした雰囲気になった気がします。子ども達が、ゆっくりのんびり息が抜ける様に、「明日も頑張ろう」と思える様な場所でありたいと思います。

保育士 柳井 朋子



非日常の中で

原稿を書いている現在より少し前の三月一日、東北で大きな地震がありました。津波で沢山の人が亡くなり、その後も被害は拡大しています。

二次災害の原発事故。被曝の恐怖は、被災地から離れた群馬県をも襲います。私たちは未来の子どもたちに安心して暮らせる土地を残せるのでしょうか。

電力も不足し、節電対策として一日三時間、六時間の計画停電が続きました。電灯の明かりが無い夜、テレビの無いリビング、室内にいなながら寒さに震える状況は、これまで経験した事のないものです。被災地で不安で苦しい生



活をしている人たちを思うとわずかな不便は仕方がないとあきらめます。

しかしそんな状況下でも、子どもたちは楽しい事、嬉しい事を見つめる逞しさを持っているようです。一つの懐中電灯の明かりに集まりゲームやおしゃべり。子どもの元気な姿に励まされています。

時期的に卒業、卒園という人生の節目の子どもも沢山います。こんな時だからこそ、支えあい励ましあい、明るく元気に新生活をスタートしてほしいと願います。

被災地の一日でも早い復興を祈っています。

主任保育士 鈴木まつみ



星たち～



のぞみホームは、六人の男の子のホームです。小四〜就労している子まで幅広くいますが、部屋に引きこもる子はおらず、みんなでテレビを見たり、遊んだりといわいい仲間がいます。そんなのぞみホームではその都度遊びのブームがあります。プラバンやオセロ、将棋など一人が始めると、

「俺もやる！まぜてー！」
 と言って、いつの間にかみんな参加していた…なんてこともあります。今はトランプがブームで三月にあった計画停電の中、懐中電灯を上からぶら下げて輪になり大富豪をしました。夢中でやっているうちにパツと電気がつき時間を忘れてしまっただけで熱中していたようです。今回の震災で停電に

保育士 飯島 梓

なり、電気の使えない中、それぞれが不安な気持ちでいっぱいだったと思いますが、みんなと一緒にいる事で気持ちが紛れ、無事に過ごせたのかなと思います。

そんなみんなも四月から学年が上がって、お兄さんになりました。わからない漢字を辞書で調べたり、目覚まし時計をセットして自分で起きたり、お弁当を作ってみたりとそれぞれが少しずつ成長しているのが見られます。新学期になると、みんな“頑張ろう”という気持ちが沸いてくるようです。そんな子ども達に負けないように私も苦手な整理整頓を頑張りたいと思います!!



子どもに寄り添うことの大切さ

昨年、子どもの自立支援を踏まえホーム献立の日を設け、テーマにそった献立をイベントになりがちな食事作りを生活の中での食事作りに変え実施しました。ホームによって状況は異なり、給食担当者としては、先生や子どもの様子を伺いながら各ホームを飛びまわり支援を行いました。普段食べているひじきも実際に自分たちで水で戻してみたら想像を超えた増え方に職員も子どもも目を見張っていました。その外にもマカロニや春雨を茹でて使う事を知らなかったなど想定外の連続でした。

ひな祭りを目前にホーム献立を巻きずしにした日のこと、厨房に職員と子どもたちがエプロンに三角巾と身支度を整えやってきました。どの子も寿司を巻く職員の手元を瞬きもせず真剣にみえています。いざ自分たちで巻き始めると、ある職員は説明を思い出しながら子どもと一生懸命に巻き始めました。ぎこちない様子で取り組み始めたHちゃん。失敗しても「さつきより上手くなったね。」と先生も必死に子どもを励まします。担当の先生に見守られながら巻く毎に上手くなっているHちゃんの姿。誰かが側にいてくれること、上手くなつたね。」と誉めて貰えたことは、子どもを笑顔にし、それでいて「失敗した」と素直に失敗を認めて前に進もうとする気持ちにさせる事にあためて気付けました。

巻き上がった寿司を手にかメラ目線でポーズをとる姿はひとまわり大きくも見え、『ありがとうございました。』の声にもHちゃんの満足した気持ちが伝わり、寄り添うことと見守る事の大切さを実感した一日でした。



調理員 大嶺真勝

懸念に巻き始めました。ぎこちない様子で取り組み始めたHちゃん。失敗しても「さつきより上手くなったね。」と先生も必死に子どもを励まします。担当の先生に見守られながら巻く毎に上手くなっているHちゃんの姿。誰かが側にいてくれること、上手くなつたね。」と誉めて貰えたことは、子どもを笑顔にし、それでいて「失敗した」と素直に失敗を認めて前に進もうとする気持ちにさせる事にあためて気付けました。

巻き上がった寿司を手にかメラ目線でポーズをとる姿はひとまわり大きくも見え、『ありがとうございました。』の声にもHちゃんの満足した気持ちが伝わり、寄り添うことと見守る事の大切さを実感した一日でした。



活動報告

平成二三年
10月、12月

- ・幼稚園小学校運動会
- ・JR東労組主催「旅のプレゼント」招待
- ・軽井沢おもちゃ王国へ
- ・群養協ミニサッカー大会
- ・マジック&歌謡ショーへ
- ・(渋川教会大類様より招待)
- ・ザスパ草津ホーム戦へ
- ・児童祝福式(七五三)
- ・七五三撮影会
- ・JR東労組主催「平和の集い」招待
- ・映画「黒い雨にうたれて」観賞
- ・渋川地区ALIT来園
- ・「ハロウィンパーティー!!」
- ・餅つき体験(善行会様のご奉仕)
- ・ティーンエイジャーコンサートへ
- ・クリスマス会(学園 渋川教会、地域)

平成二三年

1月、4月

- ・どんど焼き
- ・全日本プロレス招待
- ・帰省できなかった子どもの外出
- ・学園スキー・スノボ・雪遊び
- ・群馬交響楽団演奏会招待
- ・節分
- ・ひな祭り
- ・スズケン労組様と交流会
- ・中学卒業お祝いの会
- ・(青少年を支える群馬の会主催)
- ・園内バーベキュー
- ・(子持ライオンズ様のご奉仕)
- ・イースター(早天礼拝)
- ・卒園生「壮行会」
- ・卒業を祝う会
- ・入学を祝う会

その他、多数の招待や寄贈等を賜っています。



ギターが好きです



芋植え



イースター



旅のプレゼント



ハロウィン



誕生日会



スズケン交流会



餅つき



クリスマス



壮行会



卒業を祝う会



七五三



スキー

学園を支えてくれる『ひと』

十月から約半年という短い時間でしたが、学習ボランティアとして子持山学園の子どもたちと交流が出来たことは嬉しく思います。初めはお互いのことをあまり知らなかったため、ただ黙々と学習に取り組むだけでほとんど会話はありませんでしたが、徐々に慣れてくるとお互い積極的にコミュニケーションをとることが出来るようになり、子どもたちが勉強をしながら学校の先生や友達のことを話してくれるようになりました。学習の効率化という点においても、子どもとボランティア間でのコミュニケーションは重要であり、回数を重ねるごとに子どもたちの集中力も増していったと思います。

全体を通して、子持山学園の子どもたちはとても勉強に対して積極的であり、先生方も熱心に指導されていると感じました。とてもいい雰囲気の中、学習ボランティアをさせて頂いたことが出来たと思っています。子どもたちにとつてこの学習ボランティアの時間が少しでも有意義な時間であったなら幸いです。

私たちも不慣れなため至らない点があったかと思いますが、先生方にご尽力いただきまして無事終えることが出来ました。半年間ありがとうございました。

群馬県青年赤十字奉仕団
社会福祉班 班長 五十嵐美季

新シオンホーム 完成しました

新シオンホームが完成し、平成三年四月八日、奉献式を行うことができました。平成一六年より小規模グループケア施設として活用していた建物が老朽化のため使用できなくなり、県の「耐震化整備事業（略称）」として改築されました。

家庭的なぬくもりを大切に、吹き抜けがホーム全体に一体感をもたらします。子どもの生活動線や個々のプライバシーにも配慮が尽くされ、二人で使う子ども部屋は、間仕切りにより個室化も可能です。

社会へ羽ばたく子どもたちのために、感謝の気持ちを持って毎日を過ごします。

また、ホーム内に、「いずみ」（親子生活訓練室）を併設しました。風呂やキッチンもあり、泊まることもできます。親子の面会や触れ合いの場として有効に活用します。

工期が限られている中、施工業者様には大変なご苦労を頂きました。多くの皆さまのご協力ご支援によりこのホームが与えられたことを覚え、職員・子ども一同心から感謝申し上げます。



（旧ホーム）
思い出沢山ありがとう



渋川教会小林牧師司式の定礎式



奉献式の様子



（奥：本園、中央：名誉園長宅、手前：シオン）



建築経過

- 2010.11.1 指名競争入札
設計監理 (有)相崎工務店
施工 南澤建設(株)
- 2010.11.9 定礎式
- 2011.1.9 上棟式
- 2011.4.8 奉献式

施設概要

- 面積 延べ床面積 222.03㎡
(1階139.65㎡ 2階82.38㎡)
- 構造 木造2階建て 在来工法
- 親子訓練室 12.15㎡
- 児童居室 14.15㎡ (3室共通)



お心遣いに感謝致します

(10・10)11・04) 敬称略・順不同

寄付金

山口道子、茨川市小野上地区更生保護女性会、(株)MEAT T 星野、外山晴子・洋子、大塚廣末、齊藤医院、島村美也子、渡辺真由美、中村光孝、茨川皮膚科医院、齋藤實、石北医院、石井キミ、青木登志子、中澤文子、陸川洋子、武藤孝夫、須藤いつみ、大橋宋六、木村久子、弘川教会、エキスパートグループ群馬エージェンツ、深沢安紀子、島田卓爾・昌子、有限会社社月建設、先崎昭一、布施英俊、荒井鉄雄、三浦寛子、萩原則雄、他多数の各位

寄贈物品

竹之内久子、町田勝次、丸田舞華、大類博史、林裕美子、柿沼洋子、中澤達雄、居酒屋たぬき、全国シャネル、協同組合、藤井正雄、信和アルコル産業(株)、日本鏡餅組合、坂本功、毎日新聞東京社会事業団、(株)フレックス、JXホールディングス(株)、林克美、戸塚美恵子、番場秀、萩原潤、公文教育研究会グループ広報室、金子誠、オレンジリボン子育て支援団体横堀智子、丹羽悠、五十嵐研介、武藤孝夫、宮川ゆづり、石川昌志、山本多恵、並木なつ江、熊沢百恵、(株)三菱東京UFJ銀行CSR推進部、東洋英和女学院小学部、(株)ユチユアナ、中野順夫、茨川青翠高校家庭科クラブ、一年二組、鹿島典明、志村初夫、浅井満知子、宮沢君子、ナガトカチコ、竹之内邦江、船山株式会社、平形啓氏、塩谷豊一、竹内良弘、竹之内久子、小沢肉店、荒井鉄雄、大矢とみ系、カーブス茨川、小野喜美夫、二国コカ・コーポレーション(株)沼田支店、釘島伸博、鹿島エレクトロ産業(株)、アベックス、ススケン労働組合、旭石材工業(株)、他多数の各位

ボランティア

児童交流、須藤いづみ、ベビーマッサージ、林 弘子、書道、山口道子、大塚廣末、絵画教室、ピノキオ絵画教室、学習、群馬県青年赤十字奉仕団(五十嵐美季)、片岡田佳、金子彩乃、都丸裕美、穂波優人(群馬大学生)、(栗村健一、早川愛美、宮下せいら、山崎唯)

掲示板

職員退職、新任職員就任のお知らせ

平成三年三月末をもちまして畑中康寿(保育士)が退職致しました。大変お世話になりました。平成三年四月より森田大介(保育士)、阿部野々香(保育士)、原澤君枝(調理師)が常勤職員として採用となりました。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

タイガーマスク運動

全国的なタイガーマスク運動の広がりにより、子持山学園にも、沢山の方々が気持ちを持ってくださいます。また、一月九日付上毛新聞の記事掲載により、多くの方が子持山学園を知って下さり、「何か力になりたい」、「善意の輪が広がっていくことを願って」という願いと共にたくさんの方が届けられました。タイガーマスク運動が起こる前から、そして現在も継続して支援して下さっている方々、ボランティア活動を通して支えて下さっている方々等々、本当に多くの善意に支えられて子どもたちは元気に頑張っています。

(届けられた品々の一部紹介)

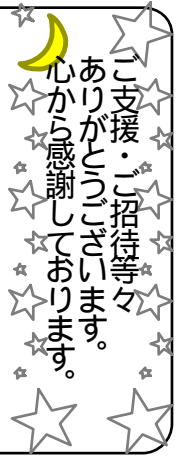
- 二つのランドセルと防災頭巾とお手紙
鍵盤ハーモニカ用の袋
高額のお金、お菓子、お米、ジュース
菓子や文房具、現金(市内の社会人二年生)
お栗沢山(茨川青翠高校二年組の皆さん)



青翠高校田嶋陽貴君と喜び子ども



届けられたランドセルやお菓子



ご支援・ご招待等々、ありがとうございます。心から感謝しております。

エキスパートグループ社会貢献チーム様 エキスパートグループの皆さまより二百万円のご寄付を賜りました。「シオンホーム新築事業」の自己資金として充当させて頂きました。 県共同募金会様「NHK 歳末たすけあい」上毛新聞様「愛の募金」 普通自動車免許を取得する四名の高校生が一人当たり二十万円の支援(配分)を受けました。 県民の皆様のご善意に感謝します。

軽井沢おもちゃ王国様

「おもちゃ王国の休日」園内無料招待 大好きなおもちゃ王国にまた行きたい!! 全日本プロレスリング様 グリーンロード前橋のイベントに招待 本気(少しお笑いも...)の迫力に圧倒!!

JR東武高崎地方本部様

「旅のプレゼント」、「平和祈念集会」等々 ススケン労働組合様 社会貢献の一環で子どもたちと交流、子ども用のテーブルチェア、遊具の寄贈

群馬県教育文化事業団様

ティーンエイジャーコンサート招待 竹内良弘様 幼児用のくつを沢山 他施設にもお分けして大変喜ばれました。

善行会様

チャリティゴルフコンペの収益金の寄付 餅つきのご奉仕

子持ライオンズクラブ様

園内でハーベキュー、美味しかった!!

自転車、お米、洋服、靴下、野菜、果物、マイクロバスの貸出、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

北極星

子持山学園は「いと小さき者への愛を」という理念のもと、より家庭的で小規模な生活スタイルの実現を目指してきた。二〇〇〇年の地域小規模養護施設である「浅田ホーム」の設置、そして二〇〇四年の小規模グループケア事業である「シオンホーム」の開設は、理念である小舎制養護の具現化を進めてきた。その中では子ども一人一人の存在が愛に包まれるように、また、自らの力を持って弓から放たれる矢のように進んでいくことのできる人になってほしいという施設方針を持って歩んできた。今、その足掛かりとなり、幾多の試みや失敗を繰り返しつつも一つの方向を指し示してくれた「浅田ホーム」が、十年を迎えた。

今回のシオンホーム新築に際し、全職員がもう一度地域小規模や小規模グループケアで目指すこと、子どもたちどんな家庭的な養育を与えられるのかについて考える機会を与えてもらった。中でも浅田ホームが十年経っても難しく課題となっていることや、十年経つてようやく築き上げてこられたことは、地域小規模施設だけのことではなく、本園での養育の目指すところにも通じ、一つの道標となった。少人数の中で一人一人に手の行きとどく養育と、それだけでもうまくいかない現実。これまでを振り返ることで、また次の目標を手に入れることが出来た。 浅田ホームの十年、シオンホームの八年の歩みをひとつの礎とし、また新たな一歩を踏み出したい。(海野)